

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後に理念の唱和をしている。理念を意識しながら職務に従事できるようにしている。職員一人一人理念に沿って自身の目標を設定して実現できるように指導している。	開設時に作成した事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示しており、ユニットや職員個人の目標も設定し、3ヶ月毎に振り返りの機会を設け、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から地域の方との交流は自粛している。近隣の方が敷地内の環境整備を下さっている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で活動を自粛していますが、事業所広報を地域に回覧したり、地域のクリーン活動にご利用者と一緒に参加するなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三和カフェひなたの運営委員会の一員として登録しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で休止中。町内高齢者の災害避難場所として協力している。御入居者様とともに地域のクリーン作戦に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、年6回定期的に開催している。日常の様子や活動報告、運営状況等を報告して質問、意見を聞き、施設側の相談にも乗っていただきサービス向上に生かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員、市の職員、ご家族から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて、サービスの質を向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上の疑問点は市役所担当・包括支援センター担当者にその都度お伺いをたてている。運営推進会議ではアドバイスを頂いている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイスを頂いているほか、運営に関して不明な点等があれば連絡し確認しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化委員会」で3か月に1回身体拘束についての検討を行っている。定期的な研修も実施して身体拘束をしないということを通達認識がもてるよう行っている。玄関の施錠は夜間のみ防犯のため行っている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしています。また、事業所で身体拘束に関する研修を行ったり、3ヶ月1度身体拘束の検討会を行うなど、身体拘束をしないケアに努めています。	調査時点で身体拘束の同意書について期限が記載していなかったり、検討会の議事録に記載ミスがありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置、職員同士注意し合える環境をつくっている。高齢者虐待防止のための研修も年2回実施して虐待防止、人権の尊重につなげられるよう取り組んでいる。	言葉による抑制についても管理者が気付いた時に指導したり、外部研修の資料等も活用し、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用2名あり。職員には制度について定期的に研修して理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、変更、解約、改正時等、一つ一つ丁寧な説明を行っている。疑問や不安な点がある時はいつでも気軽にお聞きくださるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時等、様子等をお伝えするとともに、不明な点、要望等をお聞きして反映している。また意見箱を設置していつでも意見を頂けるようにしている。御利用者様、御家族様の意見を尊重して希望にも応じるようにしている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で活動を自粛していますが、例年では事業所の家族会や行事にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的に職員と面談の機会を持ち職員の声が届きやすい環境になっている。それを意見、要望として社長に伝えるとともに全体会議等職員の集まる場で検討や結論を出している。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議・ユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、定期的に個人面談も実施し、職員の意見を吸い上げられるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の勤務状況や努力を把握してスキルアップできる環境を整え、働きやすい環境整備に努めている。個々の状況に応じて柔軟な勤務時間の対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内で研修を実施している。研修や資格取得を段階的に勤め勤務の調整をする等職員がスキルアップできる環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から直接会うなどの交流はしていないが電話、fax等で困りごとや情報交換は随時している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネより情報収集を行い、事前面談時は本人の困りごと、不安な事、要望などを聞き不安が解消し安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネより情報収集を行い、申込時・事前面談時、御本人様・御家族様の要望や心配事等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時に担当ケアマネや御家族様、御本人様に状態を聞き心身の状態出来る限り把握し、御本人様の状態に対応するサービス内容を見極め、その人らしい生活が安心して送れる様に、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の後片付けや洗濯物干し、タオルたたみなど御入居者様にできることはして頂いて一方方向に介護される側ではなく双方向に支えあえるような関係づくりができるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1度事業所広報を御家族様に送らせて頂いている。広報を送らない日は担当職員より近況報告を写真や文書を添えて御家族様に送っている。受診、外出、外食等御家族様より協力頂いて御入居者様を共に支えていけるような関係づくりを目指している。	3ヶ月に1度は事業所広報をご家族にお送りしているほか、広報を送らない月には担当職員よりご利用者に応じて近況報告もお送りしています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の関係性が途切れないよう、親戚や友人等と御家族様の理解を取ったうえで、電話等でお話をさせていただいている。受診後御入居者様の馴染みの場所を通ったり行きつけの美容院に出掛けたり馴染みの人や場との関係継続支援に努めている。	知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族の協力も得て自宅への外泊やお墓参り、行きつけの美容室に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に行動を細かく観察することにより御入居者様同士の関係を把握し、日常生活の中で御入居者様が持っている能力を活用していただけるように、職員が誘導したり、役割分担をしたりして、自然に御入居者様が双方向に支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も必要に応じて相談や支援ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望、意向の把握ができるよう努めている。また、思いや意向等を記録に残し、職員全体で共有できるようにすると共に、ケアプランにも出来るだけ反映させられるように努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時、在宅担当ケアマネより情報の収集、事前面談時には御本人様・御家族様より情報収集、入居後には御入居者様との会話等にて把握して生活の継続ができるよう努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご利用者の生活歴をより把握できるように、全てのご利用者に対して生活史シートを作成し、職員間で情報を共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り時、状態・出来事等を確認し、変化等は重点的に周知できるように連絡ノートに記載している。業務に入る前には必ず目を通し、職員全員が情報共有できるように努めている。月1回ユニット会議あり現状の把握、共有できる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時御家族様と報告・相談を行い、生活についての意向等を把握している。短期目標の期間ごとにモニタリングを行い、ユニット職員、ケアマネで随時ケア内容の検討を実施している。状態変更時・認定更新時には、御家族様を含め関係者との担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	3ヶ月に1度は担当介護職員と計画作成担当者がモニタリングを実施し、6ヶ月に1度のサービス担当者会議の前にはご家族の意向を確認し、介護計画に反映させています。	調査時点で介護計画書の期間の見直しが行われていない方や、介護計画書の作成日に誤りがありましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録に、御入居者様の様子や言葉を記録し、毎日の申し送り時に報告している。全職員で情報を共有し、統一したケアができるよう実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様の都合により病院受診付き添いしたり入院中御家族様が遠方で対応出来ない時は必要物品の支援など柔軟な対応に努め御家族様に報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に協力頂いている。月1回敷地内の草取りに来てくださっている。市の広報や地区の広報から地区の情報が得られるようになっていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、診療情報に基づきかかりつけ医・施設医の説明を行い希望をお聞きして納得のいく受診支援をしている。御家族様が遠方な方は職員が受診支援をしている。かかりつけ医で御家族様対応の場合は医師に相談して頂きたい点お伝えしている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診にも来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の関わりの中で日常の様子を把握して様子が違う等の状態が見られた場合には看護師に相談して看護師が状態確認して主治医等との連絡を取り適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医・施設医より診療情報提供書を作成していただき、施設側からも日常の様子が記載してあるサマリーを提供している。定期的に様子伺いして治療、リハビリ、退院状況など関係者と連絡を図り早期退院ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りに関する方針をお伝えして入居時点での終末期に関する意向確認している。入居後は、御入居者様の状態に応じて話し合いの場を持ち、施設で出来ないこと、出来ることを伝え、「看取り介護に関する説明及び同意書」を取り交わしている。御入居者様・御家族様の意向を確認し方針を決めている。その方針を全職員に伝え共有し、御家族様そして主治医や看護師と連携をとり、支援をしている。	契約段階で管理者は看取りに関するホームの方針を伝え、同意書を頂いています。実際にホームで看取りの支援をしたご利用者もおり、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	令和3年度はAED、心肺蘇生の研修は、3密に留意しながら、実施している。行方不明者捜索訓練や緊急連絡網実施訓練も行い事故発生に備え定期的に訓練を行っている。	消防署職員に来て頂き、心肺蘇生、AEDの使用研修を受けており、ホームでも食中毒や嘔吐物処理の研修を行い、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄品、応急手当用品等の管理は定期的に点検している。令和3年度は11月に消防の方を呼んで避難訓練を実施している。	事業所にて地震や夜間の火災を想定した避難訓練を行なっています。町内の方にも避難訓練に参加してもらっているほか、災害時を想定した非常用の食品や水も確保されました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時広報や掲示物、写真の掲載について説明して契約書面にて同意を頂いている。御入居者様、御家族様希望ある時は都度変更している。御入居者様の意思を確認し、御入居者様が望む生活の実現ができるような対応を心掛けている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報や事業所内の写真の掲載についても契約時に確認が取られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉以外の表現方法や仕草からも思い等を感じ取れるよう、日々の関わりを行っている。その方にあった分かりやすい説明や言葉で自己決定していただけるように工夫して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調をみながら、時間での対応をすることなく、1人1人のペースを大切にしている。希望をその都度聞きながら過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時、衣類を職員と一緒に選んでいる。散髪を希望される方には、新型コロナウイルス感染防止の対応をしっかりと行った上で、訪問理美容や馴染みの理容店への個別支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの出来る方には参加頂いている。畑で収穫した野菜がある時には一緒に収穫している。、食器などは、食べやすい形状の物を選んでいる。御入居者様の嗜好や禁食、嚥下状態等を把握し、状態に応じた食事形態にしている。御入居者様が満足頂ける様、楽しい食卓を目指している。	調理や後片付けもご利用者と一緒に行っているほか、事業所の畑での野菜の収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご家族にも協力して頂き、ご利用者の要望に合わせて外出に出かける等の支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、バランスが崩れていないか確認している。嗜好が異なるため、御入居者様に合った水分摂取方法をそれぞれ取っている。嚥下機能が低下している方には、とろみをつけ、見守りしながら摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方は自身でしていただき、不十分と思われる方には、声掛けや見守りをし、職員が最後までの方について確認おこなっている。異常があれば、看護師報告して御家族様へ相談し、必要に応じて歯科への受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、個々の排泄パターンや排泄習慣等を把握している。各御入居者様に合った排泄対応をすることで、排泄の自立支援できるよう努めている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、排便の状況に合わせてご利用者に合わせた下剤を調整するなど、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内歩行・屋外での散歩、御入居者様によっては排便がでやすくなる体操の時間をもうけている。食事面では畑で取れた野菜を多く使用している。また嗜好に合わせて水分摂取促すことで便秘の予防のための取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の体調や精神的な状態を確認しながら、御入居者様のご希望や気持ちを大切に入浴して頂いている。御入居者様が入浴したくないと訴えあった場合は時間や日にちをずらして入浴して頂いている。	お風呂は一般浴槽と特殊浴槽があり、週2回、午前での入浴支援が基本ですが、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操や棟内歩行など体を動かす時間を設けてメリハリがある生活を送れるように努めている。寝付けないうちは傾聴したり、話をしながら温かい飲み物を飲んで頂いたりしている。出来るだけ寄り添った対応を心がけ、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御入居者の服薬情報を個別ファイルに綴り、職員がいつでも確認できる様にしている。薬は看護師がセットし、変化等の確認をしている。服薬時は、誤薬が無いように一人一人ダブルチェックで確認している。状態に合わせて減薬できるような医療とも連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、経験や体験を聞き取り、できる事や得意なことを見つけ、役割を持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の対策をしっかりとした上で、自宅への外出・外泊等、御家族様の協力もいただきながら対応している。外気浴や散歩の他に御入居者様に希望を伺い個別の外出支援もしている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見やあじさい見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望により少額の現金を所持している方もいる。希望があれば、日用品等、御入居者様と共に購入できるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている御入居者様もいて電話のやり取りは自由にいただいている。手紙のやり取りも自由にいただいております。投函等も支援している。御家族様のご希望により、御入居者様とお話していただくこともしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂ける様、室温調整をこまめにしておこなっている。定期的に窓を開け、空気の入れ替えをしている。トイレも汚れたら都度清掃、消毒している。又、異食等の危険が無いように置く場所等配慮しながら、季節の花を飾ったり、写真や塗り絵などの作品を貼り季節を感じられるような工夫もしている。	共有スペースは広々として開放感があります。共有スペースにある畳の小上がりはご利用者がお昼寝をしたり、洗濯ものを畳んだりして過ごせる場所です。飾られている装飾品も季節に合わせてあるほか、活動の様子をまとめた写真も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは新聞やテレビを観たり馴染みの御入居者様同士で話ができるよう支援している。畳の小上がりもあり利用される御入居者様の方もいる。ユニット間も自由に行き来できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居者様が自宅等で使い慣れたものやなじみの品を持ち込みしていただき、御入居者様が、生活の場として混乱を少しでも無くし、安心して過ごせる様にしている。仏壇・位牌や思い出の写真を持ち込んでいる方もいる。	居室には仏壇やラジオ、本などの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手すりを設置して御入居者様が安全に移動できるよう努めている。居室内では、御入居者様の希望や動きに合わせて家具等を配置したり、名前等文字だけの表示ではなく、居室の入口に写真を飾り、自分の部屋がわかるようにすることで、自立して移動できるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					